

令和6年3月1日(金) 令和5年度 第11号



さいたま市立泰平中学校

学校だより

さいたま市北区本郷町 1991 電話：048 (651) 4134

【教育目標】

豊かな心を持ち実践力のある生徒の育成

【目指す生徒像】

季節の花と明るい挨拶にあふれ、
生徒一人ひとりの夢と生きる力を培う学校

—大好きTAIHEI—

「好きなことにトライ」

校長 鈴木 純

昨年よりも2週間早い関東での春一番、2月なのに初夏を思わせる季節外れの暖かさだったり、その翌日は一けた台の冷え込みとなったりと寒暖の差が身体に厳しく感じます。先月お伝えした体育館前の白梅は満開を迎え、各地では、早咲きの桜の便りや大宮第二公園の梅まつりの話を聞くと、春は近くに来ているのだなと待ち遠しく思っています。

さて、某通信会社のCMを見ていたら、教育情報誌に掲載されていた話が思い浮かびました。そのCMの概要は、3年ぶりに離れて暮らしているおじいちゃんとおばあちゃんの家にお孫一家が訪れます。主人公である孫は、「おじいちゃんは、ドローンの人になっていた」とつぶやきます。おじいちゃんからプレゼントされたドローンの模型を嬉々として操縦する孫のカットの後、おじいちゃんが本物のドローンのパイロットとなって農業に活用している凛々しい姿が映し出され、孫目線から新たな挑戦をするおじいちゃんの姿に驚くとともにあこがれる様子が描かれています。

「好き」を突き詰め仕事にされたドローンパイロットの男性(20代)は、病気が原因で小学校にはほとんど通うことができませんでした。急に吐き気をもよおす周期性嘔吐症でした。「不登校だったから、文字の読み書きができない、勉強についていけない」と思い、つらい小学校時代を過ごしました。しかし、特別支援学校3年生の時に、読み書きができなかった理由が別にあることがわかりました。「識字障害」という学習障害の一つで、文字の読み書きに限定した困難がある疾患でした。その当時の担任の先生から、「やれることを伸ばしなさい。できないことはそのままにしておきなさい」という教えのもと、文字は読めませんが耳から入ってきたものはよく理解でき記憶力もよかったことから、小さいころから好きだった飛行機・ヘリコプター・鳥などについて、YouTubeを見て飛行のメカニズムなどを調べていくうちに「ドローン」と出合いました。「ヘリコプターのパイロットになりたい」しかし、識字障害が立ちほだかりかなうことができません。「せめて、パイロットの目線だけでも経験したい」という思いから、海外から材料を取り寄せ自分でドローンの機体を作製しました。モニターの映像を見たときの達成感から、「これを仕事にできればいい」と卒業文集に書いたそうです。それからはドローンに夢中になり、家族の助けもあり、気が済むまでやらせてもらったそうです。

ドローンの競技大会では日本チャンピオン、アジア大会では第8位となりました。そのうち、ドローンを活用した映像撮影の仕事が舞い込むようになったそうです。「自分のやりたいことを口に出して皆に伝えることが大事」と、可能性を広げ、現在は父親と起業し老朽化した橋梁の点検や機体開発、操縦者の養成も手掛けるほどになりました。

やりたいことが見つからない人には「なんでも疑問に思うこと」そして「今できることを目いっぱいやって、できないことはさっとあきらめる。それが私の生き方です」と、男性は言っています。

「興味があること」「今手掛けていること」「好きなこと」を突き詰めて仕事とすること、つまり「人生の糧となるものを探すこと」、これが進路だと思います。様々な勉強を通して、自分の力として身に付け、「したい」「やってみたい」という好奇心をもってトライしていきましょう。